

なぜ、使命が重要なのか

人は仕事の意義がわかったとき、やりがい・働きがい、喜びを感じて生き生きと取り組みます。売り上げや利益といった「目標」の達成ももちろん重要ですが、目標を達成することで近づく「目的」(=使命、理念、ミッション)についても確認し合う営みが、個と組織を活性化させるのです。

1 使命が経営にもたらすもの

「使命」とは「与えられた重大な務め。責任をもって果たさなければならない任務」という意味⁸のことばです。松下幸之助は事業経営を進めるうえで、使命を掲げそれをメンバー全員で共有することが非常に重要であると考えていました。

企業経営における使命の内容を具体的に表明したものが「理念」です。「理念」については、多くの経営者・経営学者がその重要性に言及しています。

「自分は何のために仕事をするのか、この会社は何で成り立ってきたのか。根っこや源流は何なのか。そこを考えつくして行き着く、いわばアイデンティティ。困ったときの道標にもなります。ただし、理念を現実はどう生かすかは極めて困難。一方で、理念がないと前進しない。理念は現場で発見するきっかけを得ることが多いと思います。また、リーダーには理念を形骸化させないという役割もあります」⁹

(麒麟ビール元副社長 田村潤)

「人が動くかどうかを決めるのは、法律でもなければ、科学的な分析でもありません。最後は、リーダーが心に秘めている『志』しだい。理念なくし

8 出典：『デジタル大辞泉』小学館

9 出典：田村潤(2016)『麒麟ビール高知支店の奇跡 勝利の法則は現場で拾え!』講談社+α新書

て不可能に挑戦しようとしても、その思い自体がなかなか持続しません」¹⁰

(一橋大学名誉教授 野中郁次郎)

また、「経営理念と業績」の関係をとらえた研究¹¹によると、経営理念の浸透が、仕事に対する充実感や満足感、チャレンジ意欲を高め、組織メンバーのパフォーマンスを向上させて業績アップにつながるということが検証されています。学術的な研究分野でも事業経営における使命(理念)の重要性が明らかにされているのです。

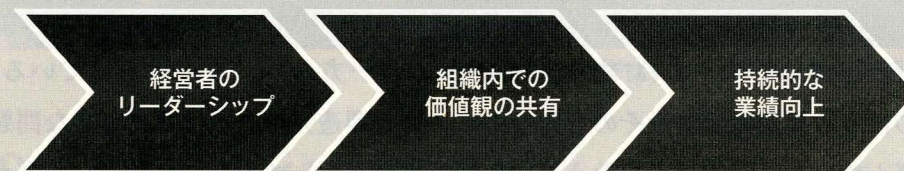
次項では、松下幸之助の事例を通じて、使命の重要性をさらに深く考察していきます。

【参考】企業文化と業績

米国の経営学者コッターとヘスケットは、企業文化と業績との相関関係を探るため、207社に対する調査・分析を行いました。

その結果、ある種の企業文化はその企業の長期的な業績を向上させることに貢献し、逆に他の種類の企業文化は業績を悪化させるという事実が明らかになりました¹²。

そして、前者の企業文化とは、その組織における真の価値観が語り続けられるような文化であり、そうした文化をつくるうえで経営者の役割が大きいことを指摘したのです。



10 出典：野中郁次郎/遠藤功(2011)『日本企業にいま大切なこと』PHP新書

11 参考：高巖(2010)「経営理念はパフォーマンスに影響を及ぼすか——経営理念の浸透に関する調査結果をもとに——」『麗澤経済研究』18(1) pp.57-66 麗澤大学経済学会

12 参考：ジョン・P・コッター/ジェイムズ・L・ヘスケット/梅津祐良[訳](1994)『企業文化が高業績を生む——競争を勝ち抜く「先見のリーダーシップ」207社の実証研究』ダイヤモンド社